

カナダ

横浜市米州事務所副所長

西川 勝裕

米国・カナダに拠点を設ける日系企業の数は、ここ10年で増加している。外務省統計によれば、2022年の北米地域の日系企業数は、12年比で約3割の増だが、米国拠点の数は新型コロナウイルス感染症の流行以降、ここ数年は足踏みがみられる。

る。代わって増えているのは、カナダ進出企業である。

カナダ経済の中心地トロントで19年から毎年開催されるコリジョンは近年、北米最大規模のテック系スタートアップ展示会として注目を集めている。今年は6月末に4日間にわたって開

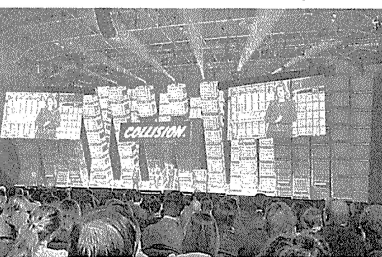
業の集積である。加えて、そこに集まる優秀な

一つは人工知能(AI)の分野をけん引する有数の大学・研究機関の存在と、そこにビジネスの機会を狙うトロント周辺のGoogleやAmazon、Uberなどの大手企業や新興企業の集積である。

多様な北米進出戦略

催され、118カ国・地域からスタートアップ(新興企業)、投資家、政府機関等の3万6千人以上が参加し、大変な活況を呈した。

24年もコリジョンのトロント開催が決まったが、その背景には、カナダのビジネス環境としての強みや魅力があるだろう。



北米最大規模のテック系スタートアップ展示会コリジョン=トロント市

人材を米国に比べ相対的に低いコストで獲得できる点や、地理的にも北米市場へのアクセスが良好である点も魅力になっている。カナダは米国の約10分の1の市場規模であり、多くのカナダ進出企業が米国でのビジネス展開を始めから戦略的に考えている。

米国から横浜に進出したCenter Technology(Japan)合同会社(横浜市港北区)は最近、事業の関連会社を新たにトロントに設置し、優秀な人材で強みをもつカナダと米国での事業展開を戦略的に進めている。同社CEOの山口廣明氏は「法人設立のため

の手続きは基本的にオンラインで済み、銀行口座開設のために1度トロント出張に行ったのみ」と、進出しやすい拠点の選択肢があることもカナダの強みとして指摘する。

金融、ライフサイエンス、自動車メーカーをはじめとする製造業などの既存産業に活用できるテクノロジーのメッカとして多くの企業がカナダに注目する中、横浜市内企業にとっても、カナダを北米進出戦略にどう位置付けていくかは重要になるだろう。

今後も当事務所としては、米国に加え、カナダも含め様々な現地機関と顔の見えるネットワークを構築し、横浜市内企業の北米進出支援に還元していきたい。